

東海村 書といけ花の仲間たち展

書といけ花

会期：平成21年1月5日(月)～13日(火)

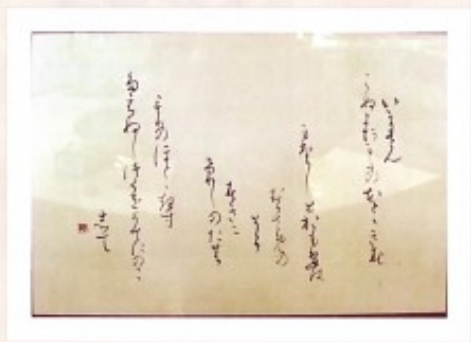
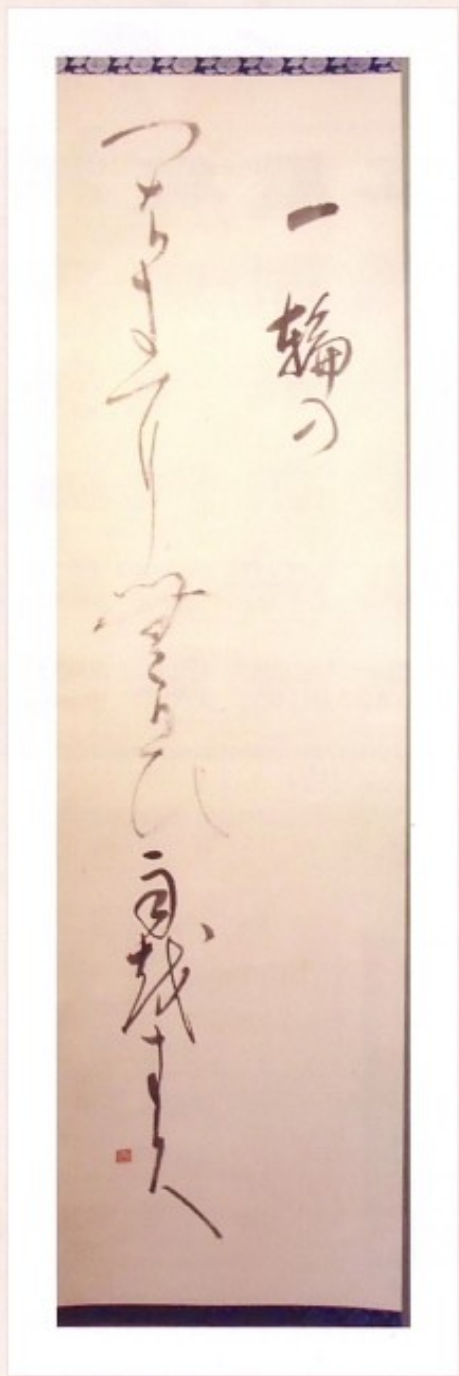
会場：テクノ交流館リコッティ



ごあいさつ

この度、書といけ花の仲間たち展示を開催することに致しました。書といけ花を同じ空間へ自由に展示してみようという試みです。何卒ご高覧いただきまして、ご批評、ご指導をいただければ幸甚に存じます。

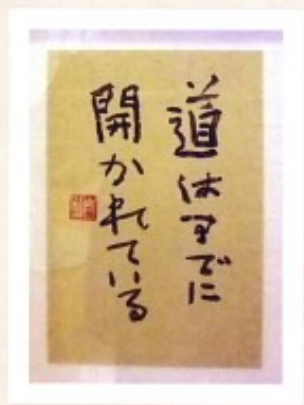
平成20年12月吉日



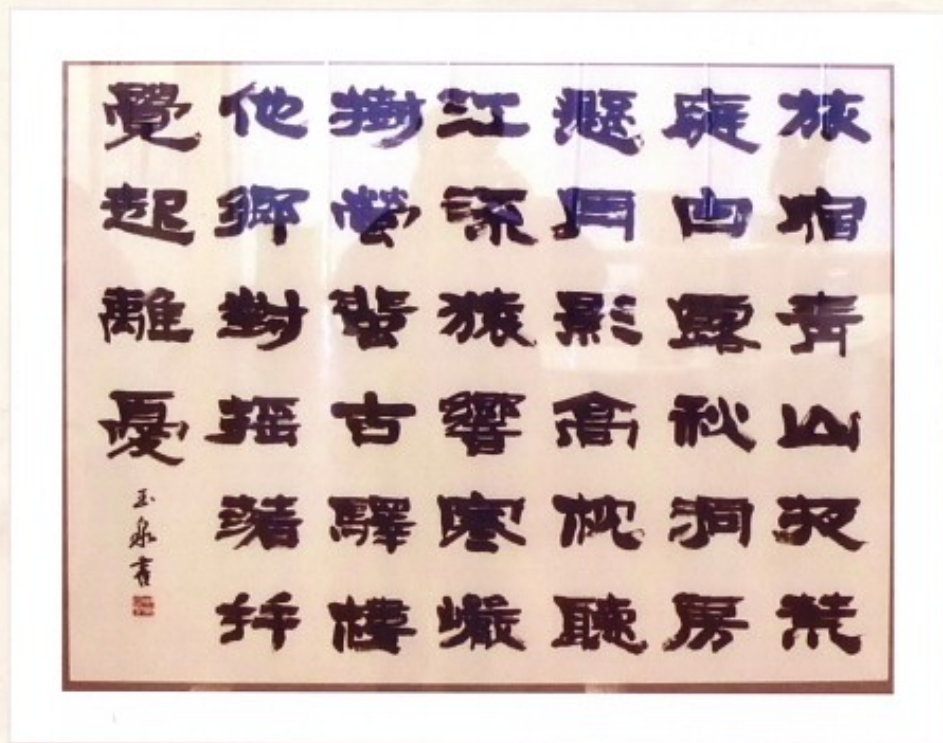
木村 清雪



関 雅山



山口 欽一



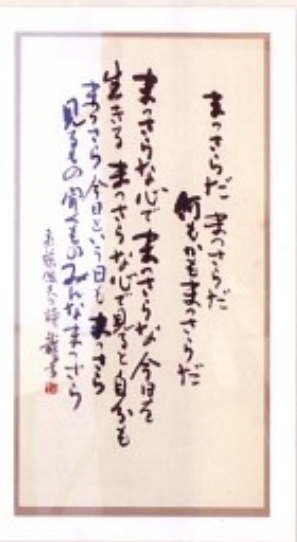
玉泉



中原 玉泉



木村 白峰



千葉 龍亭



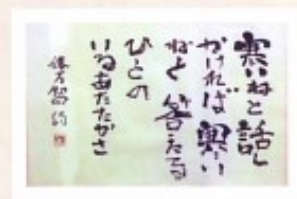
袖山 真翠



金田 祥石



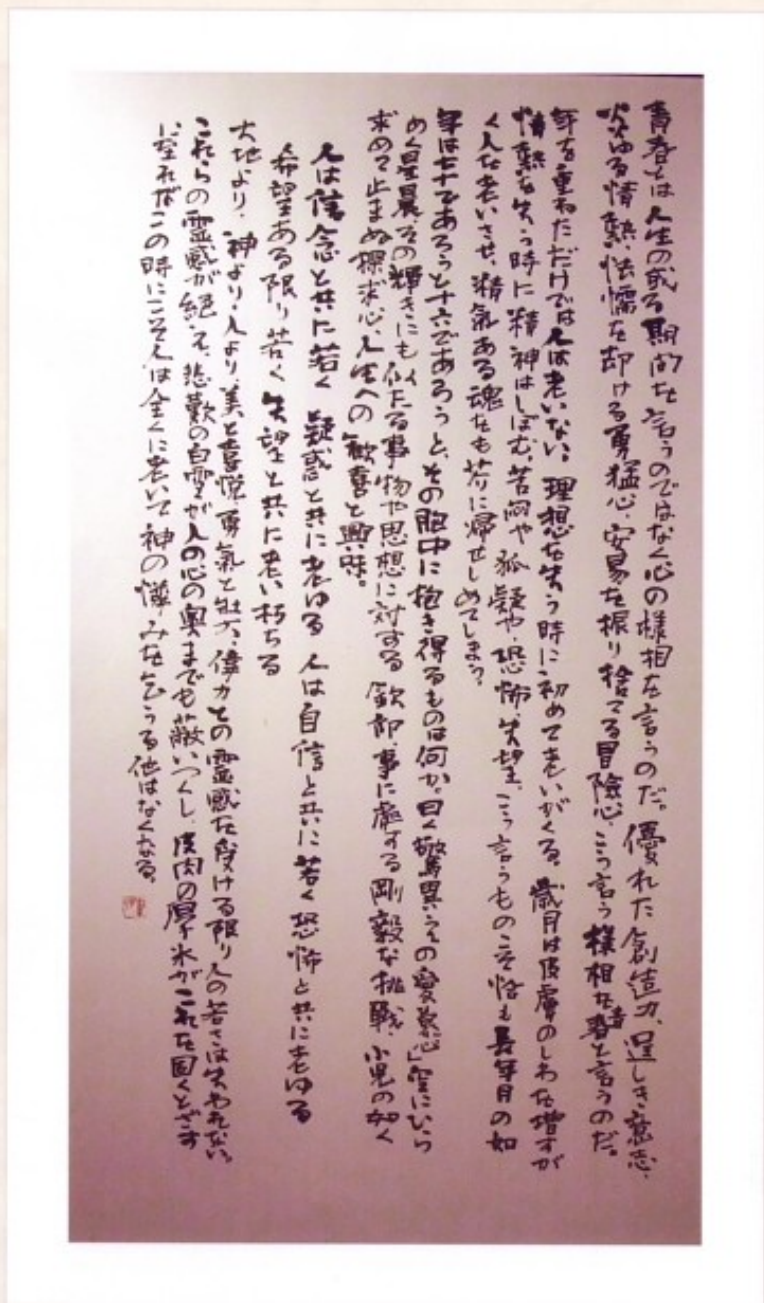
奥村 雅道



植田 愚海



三木 泰山



青春とは人生の或る期向を志すの心は心の様相を志すの心だ。優れた創造力、逞しき意志、
 必ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒險心、こころ言う様相を志すの心だ。
 身も重たただけには老い、理想を志す時に、初めて老い、歳月は皮膚のしわを増すが、
 情熱を失ふ時に精神はしむ、苦悶や狐疑や恐怖を望み、こころ言うものこそ恰も異年月の如
 く人なまかせ、精気ある魂をもたりに輝せしめてやる。
 年は老いあると十六であるうと、その胸中に抱き得るものは何や、曰く、敢て異年月の愛を志し、
 心の白雲異年の輝きにも、心する事物や思想に対する、欲即事に處する、剛毅を挑戰、小鬼の如
 く求むる止まぬ探求心、人生への歡喜と興味。
 人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる、人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。
 希望ある限り、若く、希望と共に老い朽ちる。
 大地より、神より、人より、美と喜望、勇氣と壯大、偉カとの靈感を受け、限り人の若くは老わぬ、
 これらの靈感が絶え、悲歎の白雲、人の心の奥までも、散り、し、皮肉の厚み、これを固く、
 に至る、この時にこそ、人は全くと、神の憐み、なごる、他は、なごる。



山口 紅雪



黒澤 芳徳



澤田 波舟



高野敏子 砂押恵子 大堀井久代 藤田幸子 今井裕子 呉 春代 葉 美慧 川村紀子 川崎静子 舛井美咲



砂押惠子



大堀井久代

藤田幸子



今井裕子

川村紀子



吳 春代



葉 美慧



川崎 静子



舛井 美咲



川崎 静子



舛井 美咲



書といけ花の展示



会場準備





書と生け花で
和やかな空間

東海、13日まで

「書といけ花の仲間たち展」が十三日まで、東海村のテクノ交流館リコッティで開かれている。書道と生け花作品のコラボレーション展示が和やかな雰囲気を出し、見る人を楽しませている。同展は、村書道連盟理事長の千葉龍亭さんと同華道連盟理事長の高野敏子さんから三人が企画し、各展覧会で活躍する村内

個性豊かな書道作品と生け花が展示されている
東海村舟石川駅東

外の書道愛好家と、高野さんの教えに通う生徒たちが出品した。さまざまな書体で表現された書道作品と書のイメージに合わせた作り上げた生け花などで、個性豊かな作品がそろった。竹で船を作り三種類の松と五種類の花を生けた作品「船出」は高野さんと九人の生徒が手掛けた。「みんなで気持ちをお合わせ今年一年も頑張ろう」というメッセージが込められているという。千葉さんと高野さんは「互いの作品のよさが相乗効果になって、男性も女性も楽しめるので、ぜひ、来場を」と呼び掛けている。時間は午前十時から午後六時まで。

茨城新聞掲載記事 (H21/1/11)



題字：良寛の書の集字による



書
植田 愚海 奥村 雅道
金田 祥石 木村 白峰
木村 清雪 黒澤 芳穂
澤田 波舟 関 雅山
袖山 真翠 千葉 龍亭
中原 玉泉 三木 泰山
山口 歆一 山口 紅雪

いけ花
高野 敏子 吳 春代
砂押 恵子 葉 美慧
大堀 井久代 川村 紀子
藤田 幸子 川崎 静子
今井 裕子 舛井 美咲

平成21年2月作成

